



第15回通常総会を開催しました

令和8年5月20日に、群馬県計量検定所会議室において、一般社団法人群馬県計量協会第15回通常総会が開催されました。総会には、5名のご来賓のご臨席を賜り、ご来賓を代表して群馬県産業経済部長（代理 群馬県産業政策課長 児島清浩様）に、ごあいさつを頂戴しました。



群馬県産業政策課長 児島清浩 様

総会は、正会員256名のうち出席者26名（理事12名、監事1名、会員13名）、委任状提出者181名による参加を得て、提出されたすべての議案は原案のとおり決議されました。

お忙しい中、総会にご臨席下さったご来賓は、次の方々です。

- ・群馬県産業経済部長 代理群馬県産業政策課長
 - ・群馬県産業政策課長 児島清浩 様
 - ・群馬県計量検定所長 砂山和明 様
 - ・高崎市商工振興課長 小野里清 様
 - ・伊勢崎市消費生活センター長 千吉良佳典 様
 - ・太田市産業ミライ推進課長 新井慈典 様
- また、議案は次のとおりです。

- ・第1号議案 令和7年度事業報告について
- ・第2号議案 令和7年度収支決算報告及び監査報告について
- ・第3号議案 令和8年度事業計画(案)について
- ・第4号議案 令和8年度収支予算(案)について
- ・第5号議案 役員の選任について
- ・第6号議案 規程の改正について
- ・第7号議案 入会者の承認について
- ・報告事項

- 1 群馬県計量検査センター令和7年度決算について
- 2 各部会及びその他関係団体の役員
- 3 令和7年度群馬県計量協会会員入退会者
- 4 関東甲信越計量団体連絡協議会東京大会について

なお、第5号議案において、役員の選任が行われましたが、長きにわたり理事を務めていただいた、片岡努理事（東邦車輛株）が退任され、新たに佐藤秀樹理事（日本精密測器株）、木村昌之理事（東邦車輛株）、浜辺宣昭理事（エバーグリーン株）、須藤佳之理事（太陽誘電株）、野口浩康理事（高崎市総合卸売市場株）、松本伸理事（一般社団法人高崎市医師会）、山本敬之理事（一般社団法人高崎市薬剤師会）の7名が選任されました。一般社団法人群馬県計量検査センターとの合併に伴い、これまで群馬県計量検査センターで理事を務められておられた5名の方を、当協会理事としてお迎えし、引き続き群馬県の計量思想の啓蒙普及、群馬県における適正な計量の実施にご協力いただくこととなりましたので、よろしくお願い致します。なお、今回選任された役員の任期は、第16回通常総会までの1年間となります。

本年度も協会運営にご協力をお願いいたします。

環境分科会が創立50周年を迎え記念式典を開催しました

昭和51年6月に、群馬県計量協会に環境分科会が設立され、今年で創立50周年を迎えました。

この50周年の節目を記念し、令和8年5月13日に、ホテルメトロポリタン高崎において、一般社団法人群馬県計量協会環境分科会創立50周年記念式典及び祝賀会が開催されました。

式典は三部構成として実施され、第一部を50周年記念式典、第二部を記念講演、第三部を祝賀会として開催されました。

第一部と第二部は、ホテルメトロポリタン高崎の「白鷺」において行われました。

- ・群馬県県土整備部長 佐々木 実 様
- ・群馬県環境森林部長（代理：環境保全課長）
- ・群馬県環境保全課長 畠中 一彦 様
- ・群馬県衛生環境研究所長 猿木 信裕 様
- ・群馬県計量検定所長 砂山 和明 様
- ・日本環境測定分析協会関東支部 小林 琢也 様
- ・埼玉県環境計量協議会 佐藤 英樹 様
- ・茨城県計量協会 千波 尚 様
- ・栃木県環境計量証明協議会 高梨 弘幸 様
- ・環境分科会元会長 浅川千佳夫 様
- ・環境分科会元理事 小見 明 様

一 記念式典



青山 守会長 あいさつ

記念式典には、ご来賓として次の10名の方のご臨席を賜り、佐々木様、畠中様、猿木様、砂山様、小林様から、ご祝辞を頂戴いたしました。



群馬県県土整備部長 佐々木 実 様

また、環境分科会会員として37名の参加を得て、式典参加者は総勢47名となりました。

式典の中では、佐藤副会長が制作した「環境分科会50周年のあゆみ」の動画が投影され、昭和の時代から現代に至る環境にまつわる社会情勢の移り変わりがコンパクトに、かつビジュアルにまとめられ、参加者は感慨を持って視聴していました。

記念式典の後半では、環境分科会の活動に貢献された、次の5名の方に表彰状が贈られました。

- ・(一財)群馬県薬剤師会環境衛生試験センター 須野原 修 氏
- ・㈱環境技研 佐俣 満世 氏
- ・㈱環境技研 青柳 道夫 氏
- ・㈱群馬分析センター 金子美智子 氏
- ・プロファ設計㈱ 環境研究所 富田 雄二 氏

そして、21年間にわたって、環境分科会の会長を務められた浅川千佳夫 氏に、感謝状が贈られました。

浅川氏は、令和8年春の叙勲において、元日本野鳥の会群馬代表としての功績から、旭日双光章を受章されることがあわせて披露されました。

二 記念講演

第二部として、記念講演が開催され、非財務情報開示やESG投資などサステナブルファイナンスの専門家であり、高崎経済大学学長を務められる水口剛先生をお招きし、「事業活動に求められるネイチャーポジティブの取組み」と題してご講演をいただきました。

講演は、①生態系の崩壊は私たちに共通する危機であること、②ネイチャーポジティブは重要な政策課題であること、③経済活動こそが生物多様性の危機を拡大させてきた主因であること、④ネイチャーポジティブを新たな価値へと転換する必要があること、の4つのテーマを軸に、体系的かつ具体的に展開されました。

はじめに、生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）のレポートをもとに、現在約100万種の動植物が絶滅の危機に瀕している現状が示されました。その主な要因として、①土地・海洋利用の変化、②直接的な捕獲、③気候変動、④汚染、⑤外来種の侵入の5点が挙げられ、それぞれについて私たちの身近な事例を交えながら、分かりやすく解説がなされました。

さらに、環境省の「ネイチャーポジティブ経済移行戦略ロードマップ」や群馬県の「ぐんまネイチャーポジティブ戦略」に加え、近年対応が求められているサステナビリティ開示基準やTNFDについても触れられ、企業経営における位置づけや実務対応の方向性について、具体的な視点から丁寧に説明がありました。特に、情報開示の潮流が企業価値評価に直結しつつある点については、参加者の関心を集めていました。



講演の最後には、ネイチャーポジティブの取組は単なる義務として実践するのではなく、企業や地域の価値創造へと結び付けていく視点が重要であると強調されました。その実現に向けては、地域の豊かな自然資源を価値として活用する知恵や、個別の取組を面的に広げていくための継続的な努力が不可欠であり、「オール群馬」での連携と協働が鍵になるとの示唆が示され、示唆に富む60分間のセミナーは盛況のうちに締めくくられました。

（この項の記事は、株ミツバ環境ソリューションの清水敬祐さんが、まとめてくださいました。）

三 祝賀会

最後をしめくくる祝賀会は、会場を「丹頂Ⅱ」に移して行われ、参加者は環境分科会の50年という長きにわたる歩みに思いをめぐらせつつ、懇親を深めていました。

祝賀会では、「アマダシスターズ」による余興が披露され、美しい歌声に参加者は魅了されて、会場は大いに盛り上がりました。

そして、祝賀会もお開きの時間となり、13時30分の第51回通常総会からスタートした、6時間の一大イベントは無事終了いたしました。

なお、13時30分から環境分科会第51回通常総会が行われましたが、誌面の都合によりご案内は割愛させていただきました。どうぞ、ご了承下さい。

50周年を迎えた環境分科会ですが、今後も引き続き、環境分析などを通じた環境保全活動に力を入れて参りますので、環境分科会の活動にご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。





群馬県計量検定所コーナー

計量制度は、秩序ある社会生活や経済活動を支える基盤となる制度であり、適正な計量を確保することは、県民の安全・安心な生活や経済の発展、文化の向上に極めて重要です。

計量検定所では、正確な特定計量器を供給するとともに、使用されている特定計量器から不適合品を排除するため、法令に基づき特定計量器の検定・装置検査、基準器検査、計量証明検査等を行っています。また、県民の安全・安心な生活を守る観点から、特定計量器の適正使用や商品量目の正量取引を確保するため、立入検査を実施しています。

計量制度普及啓発

【はかりの工作教室】

計量検定所では、市町村と連携し、日頃使用しているはかりや正確な計量の大切さを理解してもらうための啓発活動として、小学生を対象に「夏休みはかりの工作教室」を開催しています。教室では、牛乳パック等を活用してさおばかりを作成し、完成したさおばかりで文房具や駄菓子などの重さを測定します。

過去に参加した小学生からは、「いろいろな物がはかれることが分かった。はかりの良さが分かって良かった」、「さおばかりをつかって、はかれるものができてよかった。」等の感想をいただいています。なお、今年度は下記の日程で開催予定です。

実施市町村	開催日	会 場	参加者数
前橋市	7月24日(金)	K' BIXまえばし福祉会館（前橋市総合福祉会館）	15名
渋川市	7月28日(火)	渋川市伊香保公民館	15名
藤岡市	8月7日(金)	地域づくりセンター藤岡	15名
館林市	8月19日(水)	館林市赤羽公民館	15名



前回の前橋市の開催状況



前回の藤岡市の開催状況

また、11月には計量強調月間の一環として、群馬県生涯学習センターと連携し、小学生を対象に「おもしろ科学教室 さおばかりを作ろう!」を開催します。さおばかりづくりのほか、実物の棒はかりや上皿てんびんを使ったレクリエーション、計量検定所内見学を実施し、例年好評をいただいています。

今年度は、下記の日程で開催予定です。

開催日	会 場	参加者数
11月1日(日)	群馬県計量検定所	15名



前回の藤岡市の開催状況

【計量器クエスト】

「計量クエスト」は、デジタル技術を活用した啓発事業としての取り組みです。応募者は身のまわりにある計量器をカメラやスマートフォンで撮影し、所定の応募フォームに撮影した計量器の画像を投稿します。計量器の画像を投稿した応募者のなかから抽選で、賞品を贈呈します。（具体的な賞品等については、現在検討中です。）

なお、計量検定所では、当該事業への協賛企業様を募集しています。

協賛いただいた企業様におかれましては、群馬県HP等でPR記事を掲載させていただく予定です。

【協賛のメリット】

○自社製品の特長等や日々の計量管理について県民に周知することができる

当該事業について御興味をお持ちいただけましたら、ぜひお気軽に計量検定所までお問い合わせください。

窓口キャッシュレス決済が利用できます

群馬県計量検定所では、窓口での県証紙以外による納付方法の多様化として、検定・検査・証明書交付等の手数料納付に「窓口キャッシュレス決済」を導入していますが、令和7年10月からは電子申請・電子納付も導入しました。

※従来の群馬県証紙による納付も継続してご利用できます。

決済手段

○クレジットカード…Visa、Mastercard、JCB、American Express、Diners Club、DISCOVER、UnionPay（銀聯）

○電子マネー… iD、QUICPay

○2次元コード決済…d払い、PayPay、au PAY、楽天PAY、J-Coin Pay、Alipay+、WeChat Pay、JKOPAY、UnionPay（銀聯）、QRコード

※QRコード(R)は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

○クレジットカードは、磁気（IC）リーダー・磁気カードリーダー・NFC/Felicaリーダー全て対応可能です。

○クレジットカードはカード読み取り後、暗証番号の入力もしくは、サインを記入していただきます。

○全ての決済手段について会計完了後、会計レシートを発行します。

○電子申請・納付の詳細については、計量検定所までご相談ください。

取扱いブランド・決済手段は随時追加されます。最新情報は群馬県計量検定所HPにてご確認ください。



群馬県計量検定所 検索

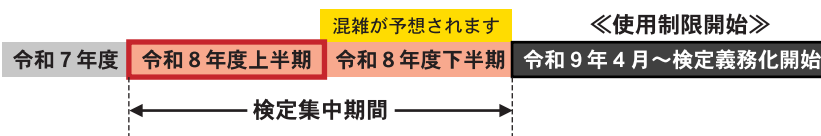
自動捕捉式はかりの早期受検に御協力ください

自動捕捉式はかりを「取引・証明」に使用するためには、計量法第16条の規定により検定に合格しなければなりません。

「既に使用している自動捕捉式はかり」の検定の受検期限が迫っています。（令和9年(2027)3月）

受検期限直前の令和8年度下半期に受検申請が集中すると、御希望どおりに検定を受検できない恐れがありますので、「自動捕捉式はかり」を「取引・証明」に使用している事業者の皆様は、令和8年度上半期中に指定検定機関での検定受検をお願いします。

【検定スケジュール】



群馬県計量検定所新体制

所長	砂山 和明	副主幹	室川由布子
次長兼係長	大谷 智昭（転入）	主任	戸塚 雅浩（転入）
補佐	楯 欣史	主事	松本 拓也
主幹	石坂 裕介	主事	國富 裕喜（転入）

〔群馬県計量協会〕令和7年度収支決算及び令和8年収支予算

(単位:円)

	令和7年度決算			令和8年度予算	
勘定科目	予算額	決算額	差異	予算額	増減
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
(1) 会費収入	4,224,000	4,128,000	96,000	4,237,000	13,000
(2) 事業収入	49,690,000	51,900,896	△ 2,210,896	86,696,889	37,006,889
(3) 負担金収入	110,000	62,000	48,000	150,000	40,000
(4) 雑収入	72,000	119,535	△ 47,535	1,502,412	1,430,412
収入計	54,096,000	56,210,431	△ 2,114,431	92,586,301	38,490,301
2. 事業活動支出					
(1) 事業費支出	51,240,000	53,065,020	△ 1,825,020	90,555,711	39,315,711
給料手当支出※1	21,225,000	21,224,695	305	42,256,000	21,031,000
報酬支出	4,620,000	4,610,700	9,300	5,650,000	1,030,000
証紙仕入費支出	10,637,000	12,251,893	△ 1,614,893	12,571,000	1,934,000
その他	14,758,000	14,977,732	219,732	30,078,711	15,320,711
(2) 管理費支出	3,108,000	3,095,055	12,945	3,389,000	281,000
給料手当支出	1,165,000	1,164,226	774	1,350,000	185,000
会議費支出	200,000	171,333	28,667	200,000	0
旅費交通費支出	150,000	236,380	△ 86,380	280,000	130,000
負担金支出	600,000	421,000	179,000	500,000	△ 100,000
その他	993,000	1,102,116	109,116	1,059,000	66,000
支出計	54,348,000	56,160,075	△ 1,812,075	93,670,412	39,322,412
収支差額	△ 252,000	50,356	2,142,561	△ 1,084,111	△ 832,111
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入	0	0	0	0	0
計量士育成資金取崩	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出	200,000	200,000	0	200,000	0
関プロ定期積立支出	200,000	200,000	0	200,000	0
投資活動収支差額	△ 200,000	△ 200,000	0	△ 200,000	0
III 予備費支出					0
当期収支差額	△ 452,000	△ 149,644	△ 302,356	△ 1,284,111	△ 832,111
前期繰越収支差額	10,457,494	10,457,494	0	10,307,850	△ 149,644
次期繰越収支差額	10,005,494	10,307,850	△ 302,356	9,023,739	△ 981,755

(注記)

※1 一般社団法人群馬県計量検査センターとの合併に伴い職員数10名となりましたので、大幅な増額となっています。

〔環境分科会〕 令和7年度収支決算及び令和8年収支予算

（単位：円）

勘定科目	令和7年度決算書			令和8年度予算書	
	予算額	決算額	差異	予算額	増減
1 収入の部					
会費	1,950,000	1,872,000	△ 78,000	1,440,000	△ 510,000
分科会費	1,500,000	1,500,000	0	960,000	△ 540,000
特別会費	450,000	372,000	△ 78,000	480,000	30,000
事業収入				3,760,000	3,760,000
ハンドブック販売				2,800,000	2,800,000
雑収入	1,000	32,171	31,171	1,000	0
雑収入	1,000	32,171	31,171	1,000	0
分担金	50,000	50,000	0	50,000	0
積立金繰入				1,702,711	1,702,711
当期収入合計(A)	2,001,000	1,954,171	△ 46,829	7,053,711	5,052,711
前期繰越収支差額	437,135	437,135	0	943,333	△ 19,000
収入計(B)	2,438,135	2,391,306	△ 46,829	7,997,044	5,033,711
2 支出の部					
本部事務負担金	150,000	150,000	0	150,000	0
事業費	835,000	300,659	534,341	6,450,000	5,615,000
委員会費	300,000	126,100	173,900	400,000	100,000
研究発表	130,000	88,608	41,392	130,000	0
環境保護推進費	35,000	34,846	154	100,000	65,000
技術研修会費	60,000	34,670	25,330	0	△ 60,000
日環協関連事業	160,000	0	160,000	100,000	△ 60,000
北関東連絡協議会	50,000	16,435	33,565	500,000	450,000
意見交換会	100,000	0	100,000	50,000	△ 50,000
ハンドブック印刷				2,800,000	2,800,000
50周年記念式典				1,500,000	1,500,000
会議費	550,000	580,180	△ 30,180	550,000	0
総会費	300,000	308,050	△ 8,050	300,000	0
役員会費	50,000	0	50,000	50,000	0
新年互礼会	200,000	272,130	△ 72,130	200,000	0
雑費	80,000	40,959	39,041	80,000	0
I C T推進費	75,000	76,175	△ 1,175	75,000	0
50周年事業積立	300,000	300,000	0	300,000	0
租税公課				100,000	100,000
予備費	30,000	0	30,000	300,000	270,000
当期支出合計(C)	2,020,000	1,447,973	572,027	7,000,000	5,985,000
当期収支差額(A)－(C)	△ 19,000	506,198	525,198	53,711	△ 72,711
次期繰越収支差額(B)－(C)	418,135	943,333	525,198	997,044	53,711

はかりの定期検査に関する令和7年度実績及び令和8年度計画

消費者など取引の相手方に不利益にならないよう、小売店、薬局、工場などで、取引や証明に使用されるはかりは、正確な計量ができるよう、計量法により2年1回のはかりの定期検査を受けることが義務づけられています。

群馬県計量協会は、群馬県及び特定市（前橋市、高崎市、伊勢崎市、太田市）から「指定定期検査機関」の指定を受け、地方公共団体に代わって定期検査を実施しています。

令和7年度について、群馬県及び特定市（前橋市、伊勢崎市、太田市）から、はかりの定期検査業務を受託して定期検査を実施しました。その実施結果については、次の表のとおりです。

令和7年度 はかりの定期検査の実施結果

区 分	群馬県		前橋市		伊勢崎市		太田市		計	
検査戸数	876		342		116		164		1,498	
種 類	検査個数	不合格個数	検査個数	不合格個数	検査個数	不合格個数	検査個数	不合格個数	検査個数	不合格個数
手動はかり	113	0	56	0	21	0	13	0	203	0
指示はかり	740	3	257	2	77	0	54	0	1,128	5
電気式はかり	813	17	1,220	35	210	4	289	4	2,532	60
分銅・おもり	568	0	253	0	109	0	58	0	988	0
計	2,234	20	1,786	37	417	4	414	4	4,851	65

令和8年度についても、引き続き地方公共団体からはかりの定期検査業務を受託しており、その実施予定は右表のとおりです。

会員のみなさまをはじめ、関係するみなさま方には、定期検査の受検についてご協力くださいますようお願いいたします。

定期検査証印（2026年）

今年度、定期検査を受検して、検査に合格するとはかりに貼られる証印シールです



令和8年度はかり定期検査予定表

委託元	区 域	期 間	日 数
群 馬 県	安 中 市	4月14日(木)～4月20日(水)	5日間
	邑 楽 郡	5月13日(水)～5月21日(木)	6日間
	館 林 市	5月27日(水)～6月5日(金)	7日間
	吾 妻 郡	6月9日(火)～6月24日(木)	11日間
	みどり市	8月25日(火)～8月28日(金)	3日間
	桐 生 市	9月1日(火)～9月15日(金)	11日間
	北群馬郡	9月24日(木)～9月30日(水)	3日間
	渋 川 市	10月1日(木)～10月14日(水)	9日間
小 計		5市3郡	55日間
特 定 市	高 崎 市	5月14日(木)～12月25日(金)	101日間
	伊勢崎市	6月25日(木)～7月2日(木)	6日間
	太 田 市	7月15日(水)～7月24日(金)	7日間
	前 橋 市	10月16日(金)～10月29日(木)	9日間
小 計		4市	135日間
合 計		9市3郡	190日間

※ただし、土曜日、日曜日及び祝日は除く。
今後、市町村との協議により変更が生じることがあります。

計量士部会が株式会社山梨オーバルを視察研修しました

令和8年3月11日(水)、当協会計量士部会は視察研修会を山梨県で実施いたしました。午前はリニア見学センターで超電導リニアの仕組みを学びました。実際に走っているリニアモーターカーを見ることはできませんでしたが、模型など各種展示物を見学して未来の乗り物だと思っていたリニアを身近に感じることができました。

昼食は「道の駅 つる」で山梨県郷土料理のほうとうをいただきました。

午後は流体計測制御の専門メーカーである株式会社オーバルの基幹生産拠点、株式会社山梨オーバルに伺いました。同社は産業界の様々な「はかる」を支える容積流量計をはじめ、渦流量計など小形・量産型の精密流量計の製造を担っており、それらの説明をしていただいた後、精密機械部品の切削および研削加工ラインを見学させていただきました。

オーバル社の製品「容積式流量計」



特に印象的だったのは、国から「DX認定」を取得している同社のデジタル化への取り組みです。高度な熟練技に頼っていた部品加工技術をデータ化し、生産の最適化と効率化を両立させている現場は大変参考になりました。機械による効率化と、



人間の確かな技能による品質管理が融合したハイブリッドな生産体制は、まさにモノづくりの模範のように感じました。

また、各工程における徹底した品質チェック体制や、工具・材料が整然と配置された作業環境など、現場の安全と効率を両立させるための細やかな工夫が随所に見られました。



今年度より群馬県計量検査センターと合併し作業環境が変わるので、日々の計量器検査の現場でも安全管理に注意し、効率的な作業につなげていきたいと感じました。

(群馬県計量協会 計量士 吉澤優人)



関東甲信越計量団体連絡協議会東京大会2026のご案内

関東甲信越計量団体連絡協議会（通称は、関ブロ連絡協議会）は、各都県の計量団体や計量に携わる方々が、日頃抱えている計量に関する諸問題についての意見交換と相互の親睦促進を図る目的で毎年開催されているものです。

今年度は東京都計量協会・東京都計量士会が幹事となって、次のとおり開催されますので、会員の皆様には、この機会を活用して、他の県のご同業者と交流を深め、今後の業務に生かしていただければと考え、ご案内いたします。（今回は日帰り開催です。）

なお、会員のみなさんが会議に参加される場合には、参加費及び交通費の一部を助成いたします。助成金の請求手続きなどは必要なく、参加申込をいただければ、当日会場において助成金調整後の参加費をご負担いただくだけでございますので、積極的なご参加をお待ちしております。

○東京大会2026開催要領

- | | |
|--|--------------------------|
| 1 趣 旨 | 閉会の辞 |
| 関東甲信越地区の計量協会及び計量士会・
部会が日ごろ抱える計量に関する諸問題につ
いて、意見協議と団体相互の交流促進を図る。 | (4) 16:00～16:15 感謝状贈呈式 |
| 2 開催期日 令和8年10月14日(水) | (5) 16:30～17:30 記念講演 |
| 3 会 場 明治記念館 | ・ 演 題：「世界に誇る日本の皇室（仮）」 |
| 東京都港区元赤坂2-2-23 | ・ 講 師：皇室コメンテーター |
| 電話 03-3746-7711 | 高清水 有子 氏 |
| 4 参加費 20,000円（協議会・懇親会） | (6) 18:00～20:00 親善交流パーティ |
| 5 参加予定人員 200名(来賓等を含む) | 7 来賓等予定者 |
| 6 日 程 | ・ 経済産業省イノベーション・環境局計量行政室長 |
| (1) 12:30～13:20 受付 | ・ 産業技術総合研究所計量標準普及センター長 |
| (2) 13:30～13:35 開催要領説明 | ・ ” 計量研修センター長 |
| (3) 13:35～15:50 協議会 | ・ (独法) 製品評価技術基盤機構理事長 |
| 開会の辞 | ・ 東京都知事 |
| 主催者あいさつ | ・ 東京都生活文化局長 |
| 来賓祝辞 来賓紹介 | ・ 東京都消費生活部長 |
| 提案議題審議 | ・ 八王子市長 |
| ①一般計量士の確保・育成状況について | ・ 1都9県計量検定所長 |
| ②一般計量士国家試験合格者・計量教習修了
者の実務経験制度について | ・ 日本電気計器検定所理事長 |
| 次回開催県あいさつ | ・ (一社)日本計量振興協会長 |
| | ・ 全国計量器販売事業者連合会長 |
| | ・ 日本計量証明事業協会連合会長 ほか |
| | (以上) |

編集後記

アメリカの企業が開発した生成AIである、Chat GPT、Gemini、Claudeの機能向上がめざましい。現在は、これらのAIが業務をこなすにも実用的となり、画像や動画を生成させたり、プレゼン用のスライドを生成させたりすることが十分な品質でできるようになった。まさに、時代の変革を感じるが、一方でClaudeを開発した米アンソロピックは、「AIの暴走リスクを抑えるには開発の一時停止や減速が有効」と提言している。なお、この「計量群馬」は人間の手で作成しているので念のため。